

2013年7月5日

SAAJ NEWS RELEASE

公開草案「金融商品：予想信用損失」についての意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会(会長：稲野和利)は、2013年3月に国際会計基準審議会(以下IASB)が公表した公開草案「金融商品：予想信用損失」についての意見書を、7月5日(金)にIASBへ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ IASBと米国財務会計審議会(以下FASB)が、2010年9月から共同で減損プロジェクトを進めてきたにも係らず、世界的なコンバージェンスに対する財務諸表利用者の期待を裏切り、まったく異なる減損モデルを提案していることは非常に残念である。公開草案の勉強会出席者へのアンケートでも、90%と圧倒的に多数の回答者が「同じモデルに統一して欲しい」と答えている。ただでさえ企業の見積りによる差の大きい予想信用損失について、両基準の違いを超えて比較分析をすることは、財務諸表の利用者に過度の負担を強いることになるであろう。
- ✓ 残念ながら、我々はIASBの提案するモデルか、FASBのCECLモデルのどちらかへ統一すべきという結論に達せられなかった。アンケートで「導入コストも考慮すると、どちらの方が金融商品の信用損失について有用な情報を得られると思うか」を質問したが、IASBの支持率は42%、FASBの支持率は32%、どちらともいえないが26%と意見が分かれ、両モデルとも過半数の支持は得られなかった。
- ✓ IASBのモデル、FASBのモデルともに一長一短があり、現状のまま一方へ統一することは不可能なため、両審議会は既存モデルへの拘りを捨てて、統一された減損モデルの構築を目指すべきである。その場合、我々は、企業会計基準委員会(以下ASBJ)が両審議会に提案している「代替的アプローチ」が議論の出発点になることを期待している。
- ✓ 我々は、ASBJの「代替的アプローチ」はIASBのモデルとFASBのモデルの中道を行くもので、簡便ながら十分な予想損失を見積もれるモデルと考えている。IASBとFASBが両者のモデル間の大きな相違を取れんさせるために、このASBJのモデルを十分に検討することを強く要望する。

【添付資料】

資料1 *re: Comments on Exposure Draft*

“Financial Instruments: Expected Credit Losses”

資料2 公開草案「金融商品：予想信用損失」についての意見書

本件に関するお問い合わせは下記まで

日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第一企画部長 かいます 貝増 眞